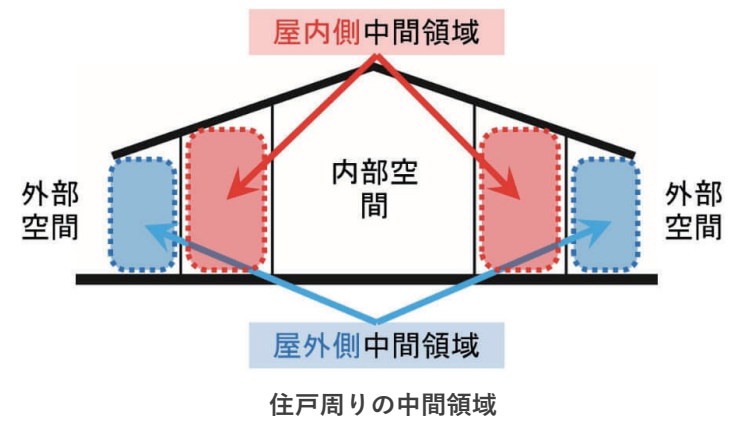


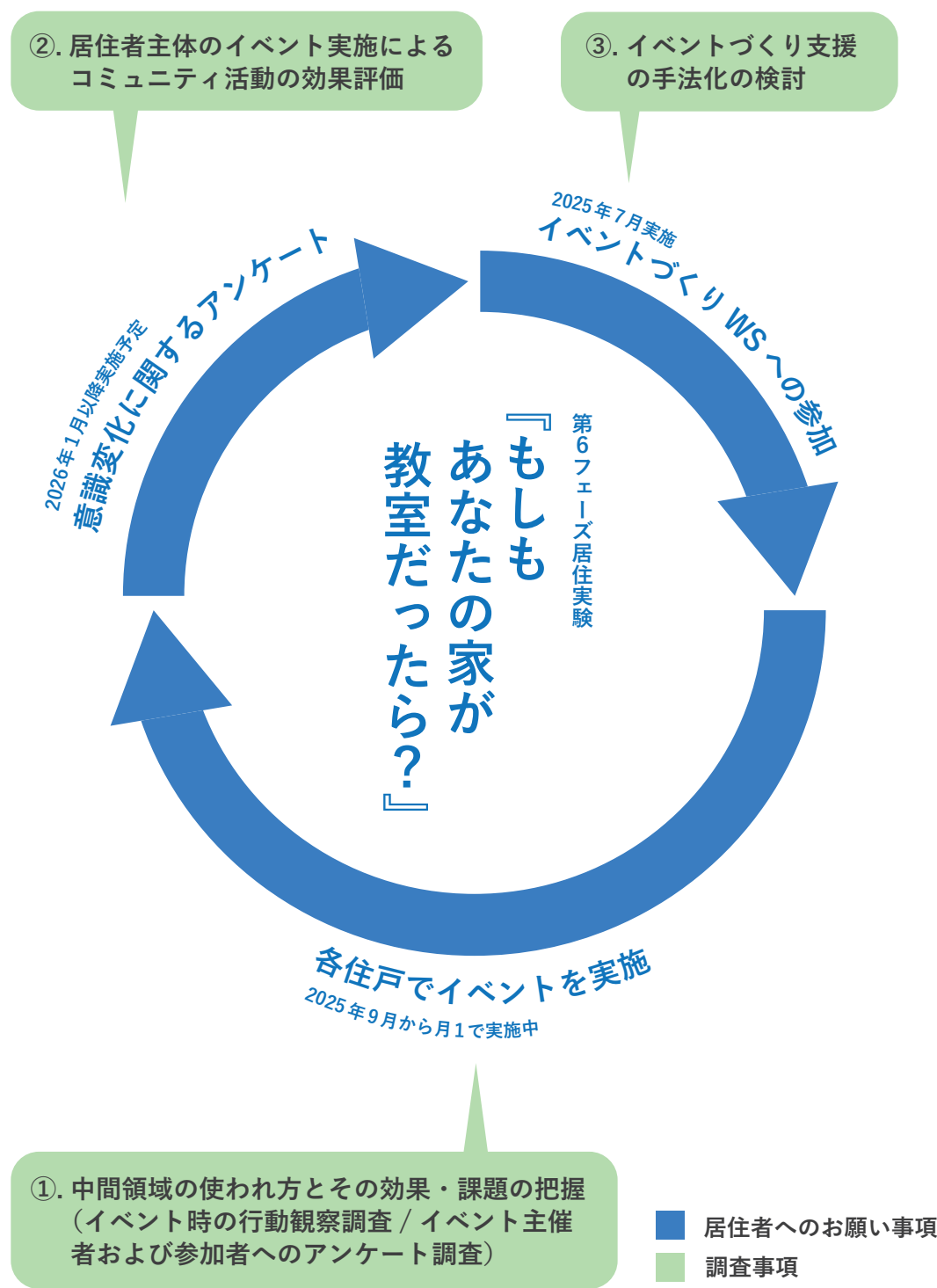
大阪ガス実験集合住宅 NEXT21 における中間領域

大阪ガス実験集合住宅 NEXT21は、住戸内外に「中間領域」や「立体街路」といった空間的特徴を持ち、集合住宅を単に住戸の積層としてではなく、垂直的な「まち」として構想する試みである。ここでいう中間領域は、廊下など外部空間と私的な内部空間をつなぐバッファゾーンであり、NEXT21では、セミパブリック空間とプライベート空間を繋ぐ「屋内側中間領域」と、パブリック空間とセミパブリック空間をつなぐ「屋外側中間領域」が計画されている。中間領域は、計画段階で大阪・空堀商店街周辺の裏路地の風景を参照しており、生活の表出や、近隣住民との交流などが起こることを意図されたものである。第4フェーズである2013年以降、積極的に中間領域を取り入れた改修や、中間領域に関する実験が行われてきた。



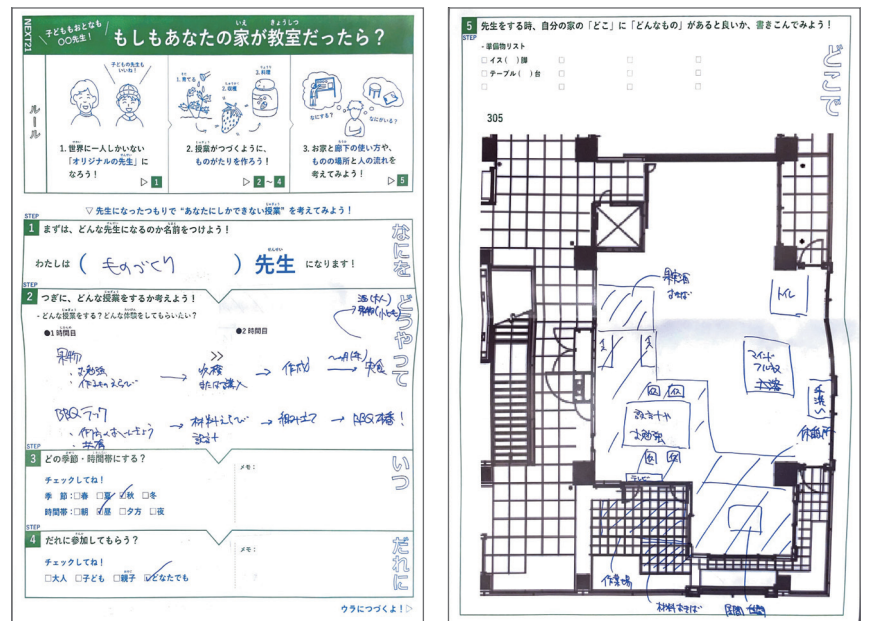
中間領域を活用したコミュニティイベント『もしもあなたの家が教室だったら？ー〇〇先生！』

第6フェーズでは、「まちで集まって住む意味を再定義する」というテーマが掲げられている。本研究では、この課題に応答し、「いえに住む」ではなく「まちに暮らす」とは何かを、居住者主体のイベントの実践を通じて検証する。具体的には、居住者が自分の特技や趣味などを生かして“先生”になってもらい、教室と見立てた住戸（中間領域）を開くイベント『もしもあなたの家が教室だったら？ー〇〇先生！』を企画・運営し、①. 中間領域の使われ方とその効果・課題の把握、②. コミュニティ活動の効果評価（イベント実施による居住者の意識変化、コミュニケーションの変化）、③. イベントづくり支援の手法化の検討、の3つの観点から居住実験に取り組んでいる。



●イベントづくりWS(2025年7月実施)

研究室では、居住者が気軽にイベントづくりを行えるようワークシートの作成を行った。居住者が、各項目の空欄を埋めると企画書になるよう工夫し、WSでは小学生による企画も生まれた。



▲ 実際に、WS で居住者が書き込んだイベント案

●各住戸でのイベント実施(2025年9月から月1を目安に実施中)

2025年9月から原則月1でイベントを実施してもらっている。研究室では、イベント時に中間領域の使い方と、イベント後に主催者および参加者に対してヒアリング等を実施している。

イベントづくりWSを元にちらしを作成。研究室では、居住者が白紙部分に書き込むだけで作成できるようpptでちらしの雛形を作成。



実施済みのイベントについて

2025年11月までに、フレンチ料理のシェフによる「野菜の目利き先生」、趣味でものづくりをしている居住者による「DIY先生」、山形県出身の居住者による「芋煮先生」の3つのイベントが実施された。研究室では、イベント時の家具のレイアウトや参加者の行動観察結果を図面にプロットする。具体的な使い方を記録することで、イベント時の中間領域の実態把握をし、今後の分析対象にする。



▲ DIY先生のイベントにおいて机を作成する参加者

DIY先生のイベントの11時30分から11時40分の記録。DIYを行うイベント参加者だけでなく、屋外側中間領域を介して住戸に訪れる住民の行動を観察した。

